

名古屋能楽堂 能楽普及公演

九月定例公演

能

狂言

能

シテ 久田三津子

「葵上」(観世流)

梓之出

シテ 鹿島 俊裕

「弓矢太郎」(和泉流)

シテ 長田 郷

「源氏供養」(喜多流)



上: 能「源氏供養」 撮影: 工房門
下: 能「葵上」 撮影: 工房門

生誕百年 三島由紀夫
「能楽」という底流をめぐって

私は十世紀に源氏物語のやうな小説が書かれたことを、日本人として誇りに思ふ。中世の能楽を誇りに思ふ。

『日本人の誇り』 決定版 三島由紀夫全集33、2003、新潮社、621P

古典を愛する三島由紀夫は、源氏物語と紫式部に関わる能の二作品を「近代能楽集ノ内」として現代劇に翻案、発表している。自ら気に入っていると言う《葵上》と、後に廃曲として封印した《源氏供養》だ。彼の演劇実験に着想を与えた、中世の能が描く源氏ゆかりの世界に今、立ち返りじっくり耽ってみたい。さらに舞囃子・連吟・仕舞も三島作品に関連する、もしくは見たという記録がある演目からお届けする。

《班女》: 近代能楽集、《童田》: 芸術断想、《松風》: 奔馬 豊饒の海 第一巻、武の道も作家が目指したところ。狂言《弓矢太郎》では、男たちが集まって太郎への謀りごと。はてさて、「強い男」とは？

令和7年

9月7日(日)13:30開演 (12:30開場)

指定席 4,200円
自由席(一般) 3,200円
自由席(学生) 2,000円

6月27日(金)より
前売券発売

主催

公財団法人

名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部

